

目的・位置付け

- 本戦略は、都における ICT 利活用の今後の展開を示すもの
 取り組むべき具体的事項や、実現に向けて検討すべき事項を掲載
- 「都民ファーストでつくる『新しい東京』～2020年に向けた実行プラン～」で掲げる「セーフシティ」「ダイバーシティ」「スマートシティ」の実現を ICT の活用により効率化・加速化させ、実行プランの施策を推進

展開時期

- 概ね今後5年間
- 2020大会時には、東京が最先端 ICT のショーケースとなり得る事業を複数展開し、大会後はそれをレガシーとしつつ、さらに ICT 化施策を進めていく

基本的考え方

柱1 都市機能を高めるに当たって、ICTを活用する

- ・都市機能とは、公共インフラなど施設だけではなく、都民サービスなども含みます
- ・行政手続を24時間365日申請可能とするなど、都民ファーストの視点を常に持ちます

柱2 データを活用する

- ・個人情報やプライバシーの保護、データの品質や信頼性・安全性の確保等に留意して活用していきます
- ・データの活用の際、都全体での共通プラットフォームについても検討しつつ、まずは、特定行政分野から導入を始めることも考えていきます

柱3 ICTを活用し、官民連携で行政課題を解決する仕組みを構築する

- ・地域の行政課題解決のために、行政はオープンデータ化を推し進め、民間はそのデータを用いて課題解決に有用なアプリを作成するなど、官民連携で取り組む仕組みを構築していきます

柱4 民間におけるICT活用を後押しし、生産性向上・新価値創造を図り、東京・日本の成長につなげる

- ◎サイバーセキュリティ、データガバナンスにも留意

主な施策展開

セーフシティ

- 【公共インフラ維持管理】◆ICTを用い、公共インフラの維持管理を推進（設計段階から施工、点検までの情報をデータベース化し、センサー・ロボット等も活用）
- 【防災・減災】◆災害現場でドローンを活用した情報収集・活動支援
 - ◆震災時の、より迅速な水道の復旧に向け、SNSで漏水情報の提供を都民等に呼びかけ、収集した漏水情報を共有
 - ◆ICTを活用した消防隊員の大規模災害図上訓練、都民向け防災体験車両の導入
- 【警備等】◆犯罪被害が及ぶ兆候をSNSサイト等Web上の情報から早期に把握
 - ◆画像・映像解析技術の社会実装に向け、都による実証実験フィールドの提供

ダイバーシティ

- 【公共データ・ビッグデータ活用等】
 - ◆ビッグデータ・AIを活用して、都民ニーズを把握・分析する等、施策検討に生かす
- 【ロボットほかICTの活用】
 - ◆感知、判断、駆動機能を有する次世代介護機器について効果を検証しながら普及を促進
- 【働き方改革】◆テレワークを都庁から率先して導入。民間事業者への導入を後押し
 - ◆保育現場でのICT化の推進
 - ◆AI等を活用した業務の効率化
- 【教育】◆教育におけるデータを分析し、ICTの効果的な活用
 - ◆官民連携した高度IT人材の育成

スマートシティ

- 【スマートエネルギー都市】
 - ◆IoTやAIなどを活用した環境性能の高いエコハウスの普及促進
- 【フィンテック】◆国際金融都市・東京の実現に不可欠なフィンテックの発展に向け海外企業を誘致
- 【産業振興】◆中小企業が取り組むIoT活用による工場の生産性向上等を支援
 - ◆収益性の高い農業経営の確立に向けICTの活用を促進
- 【観光、多言語】◆デジタルサイネージで、災害時等に情報が一斉配信できる仕組みの構築、多言語化に向け個人属性情報との連携
- 【交通】◆自動運転や需要予測信号制御の導入
 - ◆初めて利用する人や、外国人、障害者等、誰にとってもわかりやすい屋内外の移動支援
- 【オープンデータ等】◆データ公開とともに、APIの活用でオープンデータの民間による利活用促進
- 【島しょの通信環境】◆伊豆諸島の5村6島に海底光ファイバーケーブルを整備
- 【行政手続の電子化】◆情報セキュリティを確保しつつ、利用が多い手続等から順次電子化

3シティの実現に反映